

子どもの音楽的表現を誘発する環境構成の問題について

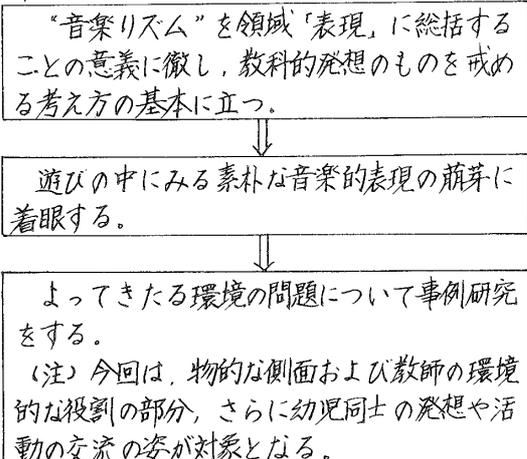
武田 道子
(静岡大学)

I 研究目的

新幼稚園教育要領が施行されて早や1年が経過しようとしている。

音楽教育の立場から俯瞰すると、子どもの自由な遊びや生活の総体の中で豊かな「感性」や伸び伸びとした「表現」の力の育ちを願うというものであり、なかなか「身近な環境と十分にかかわることの中で……」の指摘はその方法原理を示すものとして重要である。論題の捕捉はこゝに発したものである。

そこで、立論の目的について次のように構想することとする。



II 研究方法

1. 事例“環境と音楽的表現”の実態について—〔調査〕

- ・ 焼津市 2園 (3才児4クラス, 4才児5クラス, 5才児5クラス) による“あそびの記録集—全14集”(1990年4月～12月) から
- ・ 静岡市 2園の記録から
- ・ その他、保育者から寄せられた資料から

2. 事例の実態と領域「表現」の内容 (教育要領 (1)～(8)) とのかかわりについて—〔考察1〕

3. 事例の実態と「感性」に結ぶ音楽的感覚とのかかわりについて—〔考察2〕

4. 主体的な音楽的表現を誘発する環境構成について—〔考察3〕

III 結果と考察

1. 素朴な表現活動を誘発した環境の事例について 研究目的に沿う120例を越す中から22例を摘記して

みると次のようである。

- ①<トランポリン> “ピョンピョンピョン うさぎでーす”～順番を待つ子は跳ぶ子のリズムに合わせて手拍子とピョンピョンの応援
- ②<おもちゃの鳩時計> “ポッポポッポポッポ……いま何時?～(今3時) リズミカルなあてっこ遊び
- ③<オルゴール> 5・6人でメリーゴーランド遊び 保育者は同じ曲をいろいろな速度でピアノ伴奏 ねじをまく係もする みんなで踊りと楽器の自由打ち
- ④<かんむり> 色紙で作った花のかんむりで保育者に伴奏を要求～お姫さまになりきっての踊りの始まり
- ⑤<風呂敷> カセットの音楽に合わせて蝶々になったりお姫さまになったりアンパンマンになったり
- ⑥<インディアンの羽根飾り> 口に手をあてて“アワワワ……”～音のおもしろさにまねっこが盛り上がる
- ⑦<エレクトーン> サンバのリズムで即興踊り～テンポを自由に操作しその変化を楽しむ
- ⑧<鍵盤ハーモニカ> “ちびまる子ちゃんのおどるポンポコリン”で先生ごっこ (30分以上も続く)
- ⑨<木琴> “上の方がきれいな音だね”～“たいこはたぬきの音 だからウッドブロックは馬の音だよ”
- ⑩<ダンボール>・<ロープ> 汽車, バス, ロケット よろしく乗りものごっこ 保育者はエレクトーンで場面や情景の即興描写
- ⑪<新聞紙> ハンドルを作ってバスごっこ 即興の“ブッポー フッポー”から「バスごっこ」の歌へ
- ⑫<バケツ>・<空缶> 雨もりの為に置いたバケツや空缶 雨だれのリズムを擬音奏～擬音唱で模倣遊び
- ⑬<ブロック> 太鼓がわりにして「おどるポンポコリン」の即興伴奏
- ⑭<キューブのブロック> 中に小さなブロックを入れ “かわいい音がするね”～“カラカラ”と命名 テープの音楽に合わせて鳴らしながら踊る
- ⑮<サンタクロースの絵> 友だちと肩を組んで楽しそうに“ジングルベル”の歌唱表現
- ⑯<動物の家> 好きな動物になりきって鳴きまね～保育者の歌とピアノでそれぞれの動物の特徴を生かして踊り出す～“ねえこんどへびやって”の要求
- ⑰<かたつむり> テーブルにはわせながら語りかけ

るような発想唱へまわりの子も一緒に歌い出す

⑩ <ギター> 保育者のひき歌いからコンサート遊びへ 楽器隊が加わりお客さま席を用意したり指揮者もあらわれたりで大忙し

⑪ <運動会ごっこ> ちびまる子ちゃんの踊りを再現

⑫ <レッスンごっこ> 絵本が楽譜代り “ここからここまでひくことにしましょう”と長机をピアノ)にみたてて3人並んで歌いながらのピアノ)のおけいこ

⑬ <絵本>・<ペープサート> 絵本(例「大きなかぶ」)の読みかきの後 登場人物のペープサートを用意して “どっこいしょ よいしょ”と仲よく劇遊びに発展

⑭ <マイク>・<カセット、テープ> マイクをまわして歌唱表現 まわりの子は踊りながら順番待ち

2. 事例の実態と領域「表現」の内容 (教育要領 (1) ~ (8)) とのかゝわりについて

内容 (1) ----- ①・②・⑨・⑫・⑭・⑰ など

内容 (2) ----- ④・⑮・⑳ など

内容 (3) ----- ②・⑥・⑱・㉑ など

内容 (4) ----- ③・④・⑤・⑥・⑦・⑩・⑬・⑯ など

内容 (5) ----- ⑤・⑩・⑪・⑫・⑭・⑳ など

内容 (6) ----- ③・⑧・⑪・⑮・⑰・⑱・㉒ など

内容 (7) ----- ④・⑩・㉑ など

内容 (8) ----- ④・⑤・㉑ など

以上、音楽的活動内容と事例とを対照させてみたのであるが、当然のこと互いに含み合うものを持つことが多く、明確にわり振れるものではない。色濃くかわるところに位置づけたということになる。しかし、おおよそのところそのすべてを網羅していると考えることができよう。

なお、以上に関連してこれら遊びの模式的な形態の視点で整理すれば例えば次のようである。

- 音遊び-----例⑭ 模倣遊び-----例⑫
- リズム遊び-----例① 即興遊び-----例⑮
- 歌遊び-----例⑮ 劇遊び-----例⑳
- 楽器遊び-----例⑧ 動きのリズム-----例⑯

3. 事例の実態と「感性」に結ぶ音楽的感覚とのかゝわりについて

- ・ 音楽の「構成」にかゝわる要素の側面から
 - ・ 拍感 (拍の流れ) -----例②
 - ・ リズム感-----例⑩
 - ・ 旋律感-----例⑰
 - ・ 和声感----- X
- ・ 音楽の「表現」にかゝわる要素の側面から
 - ・ 速度感-----例⑦
 - ・ 強弱感-----例④

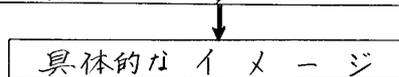
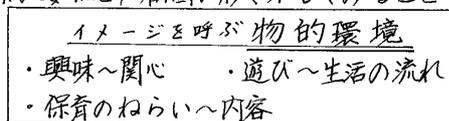
・ 音色感-----例⑨

4. 主体的な音楽的表現を誘発する環境構成について
Ⅲの1.は調査の結果、2.は1.を国の基準に照らしての考察、さらに3.は音楽的見地からの考察であった。この第4項は、以上の結果と考察の上になつて研究主題に正対するものということになる。

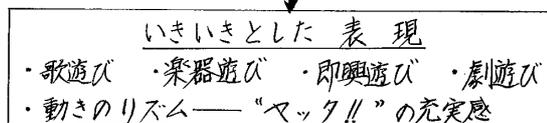
大別して、次の2点に集約できそうである。

- (1) 具体的なイメージを呼ぶ“物”の環境
捉えられた“イメージ”の視点は、事例の⑩・⑮・⑳にはじまり、①・③・④・⑤・⑥・⑪・⑫・⑯・⑰など数多くから観察されけ遊具・用具・素材など“物”の側面から抽出されたものである。

考察の要点を、構図の形で示してみることとする。



↓
<意欲>



- (2) 主体的な活動を促す“人”の環境
⑤・⑧・⑩・⑯・⑰のあたりをはじめとした調査事例から、その考察を次のようにまとめることができた

主体的な活動を促す“人”の環境	教師	幼児
心を通わせ合う信頼関係	○	○
感動を共にするコミュニケーション	○	○
発想や活動の交流	○	○
生活の流れや発達への配慮	○	△
子どもひとりひとりにとどく指導	○	△
必要感からくる技能習得への援助	○	○

“物”の環境を生かすのは“人”——この意味で、モデルとなる保育者こそは、友だちの環境にも支えられて、その中心であるということができよう。

Ⅳ 結論

以上、教育現場でのあるがまゝの実践と素材に得られたものは、要約するところ次のようである。

- ・ 物的環境では、“イメージのひらめき”を指向する。
- ・ 人的環境では、“胸の弾む主体的な活動”を指向する。——“感動も表現も先生と一緒・友達と一緒”～身体がのってくる雰囲気醸成こそと思うのである。続く研究は、残された視点からの問題追求である。その総和の上になつての結論が欲しいからである。